

## 令和3年度第3回シンポジウム

# 廃棄物処理システムにおける脱炭素化に向けた普及促進方策に係るシンポジウム

2022年2月21日版  
廃棄物資源循環学会  
環境省

〔趣旨〕 2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて、廃棄物分野では、一般廃棄物の焼却や埋立処分に伴う直接的な温室効果ガス排出の抑制のほか、収集運搬過程における燃料使用や、中間処理施設等の稼働に伴う電力使用等によるエネルギー起源CO<sub>2</sub>等の排出抑制等を総合的に講じていく対策が求められている。また、脱炭素化は、同時に第5次環境基本計画（平成30年4月閣議決定）で提唱された地域循環共生圏の創造と併せて進展していくことが必要である。

今後、プラスチック資源循環戦略に基づくマテリアルリサイクルの推進、製品素材の転換等に伴う廃棄物の質・量の大きな変化への対応を踏まえつつ、地域が目指すべき気候変動に対応した持続可能性を踏まえ、各地域の廃棄物エネルギーを最大限活用する自立・分散型の廃棄物処理システムの形成が有効である。すなわち、廃棄物処理施設が地域エネルギーセンターや防災拠点等の機能を併せ持つことで、廃棄物を地域資源とした地域循環共生圏を形成し、「気候変動×レジリエンス」及び地域循環共生圏の同時実現を可能とする。このため、環境省においては、令和3年度から廃棄物処理システム全体の脱炭素化・省CO<sub>2</sub>対策を普及促進する方策及び地域の特性に応じて最適な循環資源の活用方策の検討を行い、一般廃棄物処理システム指針の改訂及び温暖化対策に向けた実施計画ガイダンス作成等の検討を行っている。

第3回シンポジウムでは、これらの取組みに係る今年度の進捗状況と成果をご紹介するとともに、今後の進むべき方向を有識者とともに議論していきたい。

〔主催〕 環境省、廃棄物資源循環学会

〔日時〕 2022年3月16日（水）9:30~12:30

〔会場〕 航空会館（東京都港区新橋 1-18-1） ハイブリッド方式

〔定員〕 現地40名、オンライン400名。（事前申込み制）、自治体関係者を優先

〔参加費〕 無料

〔参加申込〕 学会ホームページ ([https://jsmccwm.or.jp/?page\\_id=25476](https://jsmccwm.or.jp/?page_id=25476)) からお申込みください

〔プログラム〕

9:30~9:35 開会の挨拶

学会会長 東北大学教授 吉岡敏明

司会・進行 学会副会長 日鉄エンジニアリング(株)顧問 長田守弘

第1部 今年度の成果と課題・展望

9:35~ 9:55 廃棄物・資源循環分野における脱炭素に向けて（20分）

環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課 課長補佐 山田 浩司

9:55~10:15 一般廃棄物処理システム指針の意義とSDGsや脱炭素化を念頭においた役割の方向性について（20分）

（一財）日本環境衛生センター 溝田健一

10:15~10:35 地域の廃棄物分野の温暖化対策に向けた実行計画ガイダンスの方向性について（20分）

パシフィックコンサルタンツ（株）井伊亮太

第2部 指針案等への有識者からのコメントと提言

10:35~10:55 指針案等へのコメント及び脱炭素政策の展開と資源循環分野の果たす役割について（20分）

早稲田大学教授

大塚直

10:55~11:15 指針案等へのコメント及び資源循環・脱炭素化と地域循環共生圏の展開について（20分）

立命館大学教授

橋本征二

第3部 課題発掘

11:25~12:25 パネルディスカッション（60分）

コーディネーター 公益財団法人京都高度技術研究所理事・副所長 酒井伸一

パネラー 上記講演者

12:25~12:30 閉会の挨拶

学会副会長 国立環境研究所 大迫政浩